

本学に於けるフランス語の教授法を模索して  
(学生のアンケートより)

In Search of the Teaching Method of French  
in Our College

鈴木 孝

Takashi Suzuki

## はじめに

1990年4月名古屋造形芸術大学が開校し、フランス語の授業も1年生次で週2コマ、2年生次で週2コマ、英語との選択必修科目として設定された。合計8単位である。フランス語・I、II、III、IV、を私一人で担当するという重大な責任を負わされた。芸術系の大学に於いてどの程度の学習達成目標を設定するか、あるいはどのような授業形態が良いのか、授業開始時までに綿密な授業計画を作成し臨んだのですが、教師一人の主観的満足に終了した観が絶えずあり、最終授業終了時に各項の内容でのアンケートを学生に回答してもらい、アンケート回答に即して私観をまとめ、反省と同時に今後の本学でのフランス語授業の活性化に役立たせようとするのが本論の目的である。

また、平成3年2月8日付けの大学審議会の「大学教育改善について(答申)」のなかに次のような一項がある。「このように、大学設置基準上開設授業科目の科目区分を整理することについて、これにより一般教育等を軽視する大学が出てくるのではないかと危惧するむきもある。本審議会としては、一般教育等の理念・目標は極めて重要であるとの認識に立ち、それぞれの大学において、授業科目の枠組みにこだわることなく、この理念・目標の実現のための真剣な努力・工夫がなされることを期待するとともに、この点についての大学人の見識を信ずるものである。」(註・1) この一般教育等の理念の中には当然ながら外国語教育も含まれているわけであり、担当者として教育理念や授業方法をこれに應えるように改善していくのは当然の義務と思っている。最初のサイクルを終えた今、その踏み石となるようこのようなアンケート調査をしたことを付記したい。

また、実技主流の本学にあって、今後本学が本学の教育理念のもとに新しくカリキュラムを編成していく上で役に立てればと思っている。

### 1

●設問・A] 君は選択希望どうりにフランス語を受講したのか。

1. はい。

\*全体:21名(54.1%) ☆男子:9名(47.4%) ☆女子:12名(61.1%)  
\*美全:9名(47.4%) ☆男子:4名(50.0%) ☆女子:5名(45.5%)  
\*テ全:12名(63.2%) ☆男子:5名(50.0%) ☆女子:7名(77.8%)

2. いいえ。英語から回された。

\*全体:12名(32.4%) ☆男子:9名(47.4%) ☆女子:3名(15.8%)  
\*美全:5名(26.3%) ☆男子:4名(50.0%) ☆女子:1名(9.1%)  
\*テ全:7名(38.9%) ☆男子:5名(50.0%) ☆女子:2名(25.0%)

3. どちらでもよかった。

\*全体:5名(13.5%) ☆男子:0名(0.0%) ☆女子:5名(26.3%)  
\*美全:5名(26.3%) ☆男子:0名(0.0%) ☆女子:5名(45.5%)  
\*テ全:0名(38.9%) ☆男子:0名(0.0%) ☆女子:0名(0.0%)

\*設問の目的:本学では外国語科目を、英語とフランス語の二科目を設定し、学生の履修登録順に、英語を三分の二、フランス語を三分の一の割合で受講許可をしている。英語は専任教師二名(教授一名、講師一名)、非常勤講師一名である。フランス語は私一名である。過去六年間中学高校で修得してきた外国語である英語と未修得外国語であるフランス語のどちらかを選択し修得していかなければならない本学の外国語履修の在り方を問うと同時に、未修得外国語であるフランス語の学習に興味をもつ学生がどの程度いるか、また英語から回されていやいやフランス語の授業を受ける義務をおわされた学生の数と名前を知ることで授業中の学生との接触の仕方などに配慮する必要性を感じたからである。

最初の授業開始時の調査と一致していることを付記しておく。

\*集計結果に対する私見:

★回答[1. はい] 自分の意志でフランス語を履修した学生は21名であり、全体の54.1%に過ぎない。これに回答3. のどちらでもよかった、を加えても26名、全体の67.6%である。フランス語を受講している三分の一弱の学生は当初は英語を修得したいのにフランス語に回されたということである。

★ただし、女子学生に於いては、回答[2. いいえ、英語から回された]%はかなり低く15.8%であるのに反して、男子学生の%は47.4%とかなり高い。これは回答3の[どちらでもよかった]に於いて、男子学生でこの項目に○を付けた学生は0名であるのに反し、女子学生では美術科の学生5名がいることからくる差である。回答[2. いいえ]に○を付けた男子学生(彼はかなりの成績を修めた)一人に調査後インタビューしたところ「とにかく新しい外国語を始めることは面倒だと思ったし、辞書など新しく買わなければならない費用の問題もあっ

た。」という言葉が返ってきた。概要して男子学生の意識を言い当てているのではないだろうか。

★1991年、日本フランス語フランス文学会の調査でも、40%の学生が第二外国語として自分の履修したかった外国語を受講できなかったと報告している。(註・2)

★このように外国語を単一な選択科目としてどちらかしか履修できないという現状から複数の外国語を様々な形態で学べる制度が今後は要求されるであろう。クラーク・カーが指摘しているように、元来、選択制度は、学生のために設けられたものであるはずである。(註・3)

\*参考：ここで翌年1991年度の入学生フランス語受講生41名(美術科・デザイン科・男子・女子の分類統計報告は省き)のアンケート集計を記しておこう。(以下同様)

1. はい。 \*全体：27名(65.9%)
2. いいえ。英語から回された。\*全体：11名(26.8%)
3. どちらでもよかった。 \*全体：3名(7.3%)

回答[2. いいえ]が四分の一に減っている。一年間の努力は若干報いられているようだ。

## 2

### ●B] フランス語を受講して

#### 1. よかった。

- \*全体：28名(73.7%) ☆男子：14名(77.8%) ☆女子：14名(70.0%)
- \*美全：13名(68.4%) ☆男子：6名(75.0%) ☆女子：7名(63.6%)
- \*テ全：15名(78.9%) ☆男子：8名(80.0%) ☆女子：7名(77.8%)

#### 2. 悪かった。

- \*全体：2名(5.3%) ☆男子：1名(5.6%) ☆女子：1名(5.0%)
- \*美全：1名(26.3%) ☆男子：0名(0.0%) ☆女子：1名(9.1%)
- \*テ全：1名(38.9%) ☆男子：1名(10.0%) ☆女子：0名(0.0%)

#### 3. どちらとも言えない。

- \*全体：8名(21.1%) ☆男子：3名(16.7%) ☆女子：5名(5.0%)
- \*美全：5名(26.3%) ☆男子：2名(10.5%) ☆女子：3名(27.3%)
- \*テ全：3名(15.8%) ☆男子：1名(10.0%) ☆女子：2名(22.2%)

\*設問の目的：フランス語受講学生が、設問Aにみられるように100%希望通りの受講ではないことに対して、教授者がどの程度学生に満足、あるいは抵抗のない授業が出来たかを確認する。

\*集計結果に対する私見：この設問を設けてよかったと集計していたとき心の底から思った。予期しない回答統計である。

★四分の三弱の学生が回答[1. よかった]に○をつけて

くれている。回答3の[どちらとも言えない]を少なくとも[いやでなかった]と勝手に解釈すれば、なんと94.8%(少数二桁で四捨五入・回答・2からの逆算では94.7%となる)がたいして嫌がらずに2年間のフランス語の授業を受けれたと思って差支えないであろう。これを設問Aの回答%から考えてみるとまずまずうまく授業を進められたということになろう。

★しかし、回答[2. 悪かった]に○をつけた学生は2名とも、設問Aに於いては回答[2. 英語から回された]学生であった。少数だから良いというわけにはいかない。この2名の学生は欠席も多く幾度も電話をかけたり話し合ったりしてきたのだが、結局は「単位さえ取ればいい。」という返事しか返ってこなかった。新しく学ぶ外国語の授業で我々教師が最も苦勞するのは、欠席する学生のカバーである。特に新しい事項を教授するときに欠席してしまう学生を次の授業でどのようにカバーしていくか悩むところである。

★私は毎回授業記録を記している。と言うより次の項目で学生に記録してもらっている。

[☆年月日][☆記録者名][☆授業テーマ・教材][☆理解度][☆疑問点][☆連絡事項]である。それに私自身が欠席者名を記録する。このような一見単純にみえる記録作業が案外シラバスを作成したり、欠席者の事後指導に役立つものである。(この記録は私が教師になってから既に18年間続けている)。また、授業形態としては私の[指示は命令ではない]ことを理解してもらうことを初期の段階で行っている。[指示はあくまで指示であって判断は個々であって良い]はずである。全体の秩序とは個々の内的な秩序があつてこそ正統化されるべきであり、他の学生を巻き込まないかぎり個が個としての責任で個を表現し行動することは例え授業中であっても許されるべきであると思っている。教授者は被教授者すなわち学生に対して出来るだけ少量の知識、それも最も重要な知識を与えることに努めるべきで、その事項だけは重点的に統一的に行うが、後の訓練演習は個々に行えば良いと思っている。

(註・4) 18才を越えた青年に対する外国語教育の最大の難関は授業が単純にならないことだ。間違いを間違いと指摘せずに訂正していくことは可能である。間違えたという劣等感を抱かせることなく、適切な例文・例語・音などを与えることによって学生は十分に自学する

能力を備えていることを私は知っている。(註・5)

★中央大学人文科学研究所が1991年に行った「外国語教育に関するアンケート調査報告」では選択外国語のフランス語の授業に於いての学生達の満足度は45.2%となっている。(註・6) また日本フランス語フランス文学会の1991年のアンケート調査では、「二外フランス語の授業に困難、問題を感じるか」の項で、[困難や問題を感じる]との回答%はなんと[常に感じる]と[しばしば感じる]を合わせると70.5%もいる。[時に感じることもある]を加えると実に93.9%にもなる。(註・7) 私の今回のアンケート結果はまずまずと言って良いだろうか。

★ちなみに90分の授業計画の一端を記しておこう。

☆授業開始時間に遅れないように教室に出ること。☆前回の連絡を再確認する。☆復習事項の読み(時としては小テスト)を行う。☆新しい事項に入るときは前回の指示があるのでそのような心構えを持たせる。☆演習に入れば個々に行動、マン・トゥ・マンの指導になる。特に辞書の使い方、参考書の例文を参照させること。☆疲れれば個々に休息。☆出来るだけ様々なビデオを見させる。以上である。

★参考：1991年度入学・フランス語受講生41名のアンケート集計報告

- |               |                 |
|---------------|-----------------|
| 1. よかった。      | *全体：30名 (73.2%) |
| 2. 悪かった。      | *全体：0名 (0.0%)   |
| 3. どちらとも言えない。 | *全体：11名 (26.8%) |

回答[2. 悪かった]が0名というのが光る。ただし回答[3. どちらとも言えない]の11名の中の7名が進んでフランス語受講を希望した(設問・Aで1に○をつけた)学生であることが気にかかる。彼等の期待にそえる授業が十分に出来なかったのであろう。今後の問題として自覚しておくことだ。

### 3

●C] B]で(1. に○)をつけた学生に、よかった理由。(複数○をつけて可)

- |         |         |         |
|---------|---------|---------|
| *全体:28名 | ☆男子:14名 | ☆女子:14名 |
| *美全:13名 | ☆男子:6名  | ☆女子:7名  |
| *テ全:15名 | ☆男子:8名  | ☆女子:7名  |

#### 1. フランスに興味を持った。

- |                 |                 |                |
|-----------------|-----------------|----------------|
| *全体:19名 (67.9%) | ☆男子:10名 (71.4%) | ☆女子:9名 (64.3%) |
|-----------------|-----------------|----------------|

- |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|
| *美全:7名 (53.8%) | ☆男子:4名 (66.7%) | ☆女子:3名 (42.9%) |
|----------------|----------------|----------------|

- |                 |                |                |
|-----------------|----------------|----------------|
| *テ全:12名 (80.0%) | ☆男子:6名 (75.0%) | ☆女子:6名 (85.7%) |
|-----------------|----------------|----------------|

#### 2. フランス語の基礎が分かった。

- |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|
| *全体:9名 (32.1%) | ☆男子:2名 (14.3%) | ☆女子:7名 (50.0%) |
|----------------|----------------|----------------|

- |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|
| *美全:7名 (53.8%) | ☆男子:2名 (33.3%) | ☆女子:5名 (71.4%) |
|----------------|----------------|----------------|

- |                |               |                |
|----------------|---------------|----------------|
| *テ全:2名 (13.3%) | ☆男子:0名 (0.0%) | ☆女子:2名 (28.6%) |
|----------------|---------------|----------------|

#### 3. 授業の雰囲気よかった。

- |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|
| *全体:9名 (32.1%) | ☆男子:5名 (35.7%) | ☆女子:4名 (28.6%) |
|----------------|----------------|----------------|

- |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|
| *美全:4名 (30.8%) | ☆男子:2名 (33.3%) | ☆女子:2名 (28.6%) |
|----------------|----------------|----------------|

- |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|
| *テ全:5名 (33.3%) | ☆男子:3名 (37.5%) | ☆女子:2名 (28.6%) |
|----------------|----------------|----------------|

#### 4. 教師がよかった。

- |                |                |               |
|----------------|----------------|---------------|
| *全体:9名 (32.1%) | ☆男子:8名 (57.1%) | ☆女子:1名 (7.1%) |
|----------------|----------------|---------------|

- |                |                |               |
|----------------|----------------|---------------|
| *美全:4名 (30.8%) | ☆男子:4名 (66.7%) | ☆女子:0名 (0.0%) |
|----------------|----------------|---------------|

- |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|
| *テ全:5名 (33.3%) | ☆男子:4名 (50.0%) | ☆女子:1名 (14.3%) |
|----------------|----------------|----------------|

#### 5. ヴィデオがよかった。

- |               |               |               |
|---------------|---------------|---------------|
| *全体:1名 (3.6%) | ☆男子:0名 (0.0%) | ☆女子:1名 (7.1%) |
|---------------|---------------|---------------|

- |               |               |               |
|---------------|---------------|---------------|
| *美全:0名 (0.0%) | ☆男子:0名 (0.0%) | ☆女子:0名 (0.0%) |
|---------------|---------------|---------------|

- |               |               |                |
|---------------|---------------|----------------|
| *テ全:1名 (6.7%) | ☆男子:0名 (0.0%) | ☆女子:1名 (14.3%) |
|---------------|---------------|----------------|

#### 6. その他

- ・押しつけられるという感じでなかったところ。(デザイン・女子・1名)

- ・外国での話しなど。(デザイン・女子・1名)

\*設問の目的：設問Bに於いて[フランス語を受講してよかった]と回答してくれた学生達が、具体的にどのようなところを[よかった]と思ったかを教授者が知ることから、今後更に学生達の指導をより抵抗なく高めていくための資料にしたい。

\*集計結果に対する私見：

★回答[1・フランスに興味を持った]がとび抜けて高い。三分の二強である。フランス観光局に頼んでフランスの地図や資料、パリの地図やメトロ、バス、郊外線、国鉄の乗り方など、テキストに対応させて説明した。また私の乏しいフランスでの生活体験なども授業にのみませた。☆女子学生2名がそれぞれ単独で夏休みを利用して、40日近いフランスを中心にヨーロッパ旅行をしたことを付記したい。続いて[2. 3. 4.]が三分の一弱で同数である。

★回答[2. フランス語の基礎が分かった。]は全体では32.1%であるが、デザイン科の男子は0名であるのが気になる。テキストは☆フランス語をつかって：朝日出版社☆フランス文法練習帳：白水社(二冊を2年間で行っ

た。一応終了)。特に文法とか訳読というより、フランス文の構文把握と文字綴りの読みに力をおいた。[綴りと音][品詞の働きから始まり基本文型(これらをすべて記号で表示)]に初期の段階ではかなりの時間を割いた。動詞の変化にはあまり気をつかわせずにその都度判断できればよいとした。辞書・参考書の使い方は必要に応じて気長に行った。会話の訓練はテキストに出てくる表現を使用、音読するに止まった。

★回答[3. 授業の雰囲気よかった。]は、あまりにも自由にさせた点で、高校までの統一授業に慣れている学生達から最初は不満の声もあったことは事実である。

★回答[4. 教師がよかった。]馬鹿な設問をしたと後悔している。男子学生には結構うけているのは良いのだが、女子学生ではたったの1名である。女子学生とのコミュニケーションの仕方を訓練しなければならないことを肝に命じる。

★ガッカリしたのが回答[5. ヴィデオがよかった。]がたった1名であることである。私としては、この項を期待していたのであるが、デザイン科の男子学生1名だけは今後問題であることを知った。ちなみにどのようなビデオ教材を使用したかを付記しておこう。☆バリ物語：朝日出版社：フランス語文はディクテーションで行い、修正、訳、解説・ヴィデオ。☆NHKフランス語入門：必要な箇所だけコピーで教材配布、主に文法に使用 ☆私がフランスで撮ったヴィデオ。映画等は避けた。この集計結果でなにが問題なのかを数人の学生にインタビューした。☆説明的すぎる。☆臨場感に欠ける。との意見が多かった。今後、設問・I・Jでの集計を元に、学生達が興味を持つようなビデオ教材をつくる研究をしていきたい。☆フランス語の歌、☆ランボー没100年をくやみランボーの韻文詩のいくつかを朗読、ヴィデオに収めたが、行っている時の熱気とは反して、授業でモニターに写し出して教材としたときあまり反応はなかった。

私の計画も再考を強いられることになる。

\*参考：1991年度入学・フランス語受講生41名のアンケート集計報告

C] B]で(1. に○)をつけた学生に、よかった理由。(複数○をつけて可)

\*全体：30名

1. フランスに興味を持った。 \*全体：24名(80.0%)
2. フランス語の基礎が分かった。\*全体：8名(26.7%)
3. 授業の雰囲気がよかった。 \*全体：7名(23.3%)
4. 教師がよかった。 \*全体：10名(33.3%)
5. ヴィデオがよかった。 \*全体：2名(6.7%)
6. その他

・全部です。休んでしまった日、損した気分。(デザイン・女子・1名)

・フランス語が周囲にもあることに気づいて楽しかった。(デザイン・女子・1名)

・家庭的な授業である。(デザイン・男子・1名)

・入学式の時、日本人離れした姿に感嘆していたら、本当にフランスに詳しくてびっくりした。(美術・女子・1名)

・説明してくれる時はとてもわかりやすく、なぜか頭に残っていて、英語とは違った感じで勉強できる。

(デザイン・女子・1名)

[1. フランスに興味をもった。]はかなり高い%になっている。しかし[2. フランス語の基礎が分かった。]は低くなっている。しかしこれはまだフランス語・I・II・を終了した段階のアンケートであるので、フランス語・III・IV・で挽回できると信じている。[3. 授業の雰囲気がよかった。]は、義務的な部分が多くなったせいかと反省している。[4. 教師がよかった。]は少しではあるが%が高くなっている。必要などころでの干渉をこの学年ではしている。[5. ヴィデオがよかった。]は同じ結果になっている。



●D] B] で (2. に○) をつけた学生に、悪かった理由。(複数○をつけて可)

\*全体: 2名 ☆男子: 1名 ☆女子: 1名

\*美全: 1名 ☆男子: 0名 ☆女子: 1名

\*デ全: 1名 ☆男子: 1名 ☆女子: 0名

1. フランスに興味を持てなかった。

\*全体: 1名 (50.0%) ☆男子: 1名 (100 %) ☆女子: 0名 (0.0%)

\*美全: 0名 (0.0%) ☆男子: 0名 (0.0%) ☆女子: 0名 (0.0%)

\*デ全: 1名 (100 %) ☆男子: 1名 (100 %) ☆女子: 0名 (0.0%)

2. フランス語の基礎が分からなかった。

\*全体: 2名 (100 %) ☆男子: 1名 (100 %) ☆女子: 1名 (100 %)

\*美全: 1名 (100 %) ☆男子: 0名 (0.0%) ☆女子: 1名 (100 %)

\*デ全: 1名 (100 %) ☆男子: 1名 (100 %) ☆女子: 0名 (0.0%)

3. 授業の雰囲気が悪かった。

\*全体: 0名 (0.0%) ☆男子: 0名 (0.0%) ☆女子: 0名 (0.0%)

\*美全: 0名 (0.0%) ☆男子: 0名 (0.0%) ☆女子: 0名 (0.0%)

\*デ全: 0名 (0.0%) ☆男子: 0名 (0.0%) ☆女子: 0名 (0.0%)

4. 教師が悪かった。

\*全体: 0名 (0.0%) ☆男子: 0名 (0.0%) ☆女子: 0名 (0.0%)

\*美全: 0名 (0.0%) ☆男子: 0名 (0.0%) ☆女子: 0名 (0.0%)

\*デ全: 0名 (0.0%) ☆男子: 0名 (0.0%) ☆女子: 0名 (0.0%)

5. ヴィデオが悪かった。

\*全体: 0名 (0.0%) ☆男子: 0名 (0.0%) ☆女子: 0名 (0.0%)

\*美全: 0名 (0.0%) ☆男子: 0名 (0.0%) ☆女子: 0名 (0.0%)

\*デ全: 0名 (0.0%) ☆男子: 0名 (0.0%) ☆女子: 0名 (0.0%)

6. その他

\*全体: 0名 (0.0%) ☆男子: 0名 (0.0%) ☆女子: 0名 (0.0%)

\*美全: 0名 (0.0%) ☆男子: 0名 (0.0%) ☆女子: 0名 (0.0%)

\*デ全: 0名 (0.0%) ☆男子: 0名 (0.0%) ☆女子: 0名 (0.0%)

\*設問の目的: フランス語の授業を受けて悪かったと学生が感じるその原因を☆設問・C と対比して今後修正できる態勢を作るのがこの設問の目的であった。

\*集計結果に於ける私見: 全体の人数が2名なので、限られた情報となった。学生達にとって悪く感じたところをもっと幅広く調査すべきであった。ただ、☆回答・3・授業の雰囲気が悪かった。☆回答・4・教師が悪かった。が0であったことが救いである。

★回答・1と2に数字が表れているだけで、あとはすべて0であり、更に細分化した設問が必要であった。

\*参考: 1991年度入学・フランス語受講生41名のアンケート集計報告

D] B] で (2. に○) をつけた学生に、悪かった理由。(複数○をつけて可)

\*全体: 0名であるので、回答はなし。

●E] ヴィデオ授業について = 1

1. もっとやってほしい。

\*全体: 26名 (68.4%) ☆男子: 11名 (61.1%) ☆女子: 15名 (75.0%)

\*美全: 11名 (57.9%) ☆男子: 3名 (37.5%) ☆女子: 8名 (72.7%)

\*デ全: 15名 (78.9%) ☆男子: 8名 (80.0%) ☆女子: 7名 (77.8%)

2. やってほしくなかった。

\*全体: 0名 (0.0%) ☆男子: 0名 (0.0%) ☆女子: 0名 (0.0%)

\*美全: 0名 (0.0%) ☆男子: 0名 (0.0%) ☆女子: 0名 (0.0%)

\*デ全: 0名 (0.0%) ☆男子: 0名 (0.0%) ☆女子: 0名 (0.0%)

3. どちらでもよい。

\*全体: 12名 (31.6%) ☆男子: 7名 (38.9%) ☆女子: 5名 (25.0%)

\*美全: 8名 (42.1%) ☆男子: 5名 (62.5%) ☆女子: 3名 (27.3%)

\*デ全: 4名 (21.1%) ☆男子: 2名 (20.0%) ☆女子: 2名 (22.2%)

\*設問の目的: 本学には43席のモニターテレビを備えた視聴覚教室がある。ヴィデオ教材をセットすれば映像は各学生の目の前に現れる。まずは学生達が映像を通してのフランス語授業にどのように反応したかを知るための設問であった。

\*集計結果に対する私見: 設問・3の回答・5に於いて使用したヴィデオ教材についてはすでに記した。設問・3の回答・5の%を考えるとこの集計結果をどのように判断してよいのか迷う。ヴィデオはもっと写しだして欲しいが、問題は内容であるのか。1991年6月8日に東京大学駒場で行われたシンポジウム「これでよいのか フランス語教育」に於いて、玉川大学の油谷耕吉先生は次のような発言をされている。「学生側の体験的なコミュニケーションというものを指向しているのに対して、教師の側は[簡単な読み物を読む]、[新聞、雑誌を読む]、[文学作品を読む]、[専門書を読む]、ひたすら[読む]ことを指向しているように見えます。」(註・8) 少なくとも私はこのような意識は持っていない。フランス語を学ぶのに最良の方法はフランスで暮らしてみることであることに異論はあるまい。しかし現実としては不可能な場合が多い。それゆえ、まずフランスという実態を出来るだけ多くの機会に映像として学生に与え、その風景、生活様式、文化を中核にしてフランスを意識させることからフ

ランス語を修得する意識を高めたいと常々思っている。これを教室で行うにはビデオしかないのである。設問・3の回答・5の%を思うと胸が痛むが、この設問に於いて少しは救われる思いがする。

★回答[1. もっとやってほしかった]が三分の二強である。特に女子学生の%が高い。

★回答[2. やってほしくなかった]は0である。

★今後の教材の問題としては、設問・Fの回答を参考にしよう。

＊参考：1991年度入学・フランス語受講生41名のアンケート集計報告

E] ビデオ授業について=1

- |                |                 |
|----------------|-----------------|
| 1. もっとやってほしい。  | ＊全体：26名 (63.4%) |
| 2. やって欲しくなかった。 | ＊全体：0名 (0.0%)   |
| 3. どちらでもよい。    | ＊全体：15名 (36.6%) |

多少回答・1が減少しているが、今後ビデオを教材として使う機会を更に多くしていくことは学生達にとって少なくとも抵抗はないようである。



6

●F] ビデオ授業について=2 (1ツだけに○をつけてください)

1. もっとフランスを写してほしかった。

- |                 |                 |                 |
|-----------------|-----------------|-----------------|
| ＊全体：26名 (68.4%) | ☆男子：13名 (72.2%) | ☆女子：13名 (65.0%) |
| ＊美全：13名 (68.4%) | ☆男子：6名 (75.0%)  | ☆女子：7名 (63.6%)  |
| ＊テ全：13名 (68.4%) | ☆男子：7名 (70.0%)  | ☆女子：6名 (66.7%)  |

2. もっと会話のビデオをやってほしかった。

- |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|
| ＊全体：9名 (23.7%) | ☆男子：3名 (16.7%) | ☆女子：6名 (30.0%) |
| ＊美全：4名 (21.1%) | ☆男子：1名 (12.5%) | ☆女子：3名 (27.3%) |
| ＊テ全：5名 (26.3%) | ☆男子：2名 (20.0%) | ☆女子：3名 (33.3%) |

3. もっと文法のビデオをやってほしかった。

＊全体：3名 (7.9 %) ☆男子：2名 (11.1%) ☆女子：1名 (5.0%)

＊美全：2名 (10.5%) ☆男子：1名 (12.5%) ☆女子：1名 (9.1%)

＊テ全：1名 (5.3%) ☆男子：1名 (10.0%) ☆女子：0名 (0.0%)

＊設問の目的：設問・Eに対して、今後どのような教材を選択使用したらよいのかを知るのが目的である。

＊集計結果に対する私見：設問・Eに於いて☆回答[1. もっとやってほしかった]が68.4%にもなっている。この要求に対して3種の教材からもっともやってほしかった教材を一つだけ選んでもらった。

★回答[1. もっとフランスを写してほしかった]が最も多く68.4%にもなっている。これは私が意図したことに一致している。フランス語受講生全員が現実にフランスで暮らすことは現在ではまず考えられないことである。しかし夢を与えることはできる。夢があることは現実化する可能性を絶えずひめているものであるし、また例え短期間であろうともいつかフランスへ行ってみようという思いが生まれる土壌になる。(註・9) その様なフランス語教育の導入の仕方もあってよいのではないだろうか。

★回答[2. もっと会話のビデオをやってほしかった]は四分の一弱である。これは私の体験であるが、会話とは一体何なのだろうかと思案する。日常生活におけるコミュニケーションのことであろうか。簡単な挨拶、買い物時の値段の聞き方、レストランでの注文の仕方、すなわち対話者同士があらかじめ何をしようとしているかをある程度分かり合っている場合の言葉による確認であるのだろうか。私はもし会話を主にした授業をしようとしたら☆まず基本的な単語を1000語程まる暗記してかかるべきだ、と思っている。☆そのうえで毎日浴びるようにフランス語を聴き、吐くようにフランス語を発する訓練をしなければ到底不可能な相談であると思っている。すなわち使わなければ言葉ほど忘れるのがはやいものはない、と思うからである。楽しみ程度の会話、フランスへ行った時、知らないより知っていたほうがまだ、程度になろう。

★回答[3. もっと文法のビデオをやってほしかった]この回答に3名の学生が○をつけている。これはNHKフランス語入門のビデオを使用したことは前に記したが、全巻をとうして使用したわけではない。補語人称代名詞、中性代名詞、複合過去、代名動詞、などにこのウィ

デオを使用した。私の文法説明よりビデオによる説明のほうが学生にとって分かりやすかったのであろう。しかし時間的制約のなかで全ての文法事項をこのビデオによって行うことは不可能である。まさに授業すべてが文法講座になりかねない。今後も内容によってはビデオを使用した文法授業を増やしていくことも考えられる。特に復習として行うことのほうがより効果的に思える。

\*参考：1991年度入学・フランス語受講生41名のアンケート集計報告

F]ビデオ授業について＝2（1ツだけに○をつけてください）

1. もっとフランスを写してほしかった。

\*全体：33名（80.0%）

2. もっと会話のビデオをやってほしかった。

\*全体：5名（12.2%）

3. もっと文法のビデオをやってほしかった。

\*全体：3名（7.3%）

私がフランスで撮ってきた8mmビデオでまだ未公開のものが多々ある。学生達のこの要望に応えるために、これを今後どの様に授業で使用していくか、計画を綿密にしていかなければならないと思っている。

## 7

●G]ビデオ授業について＝3

本学の特徴を活かし、自分達でビデオ教材を作っていくことについて。

\*寸劇 \*朗読 \*遊び・などを、ビデオにして教材として使ったこと。

1. 賛成

\*全体：19名（50.9%）☆男子：10名（55.6%）☆女子：9名（45.0%）

\*美全：10名（52.6%）☆男子：4名（50.0%）☆女子：6名（54.5%）

\*テ全：9名（47.4%）☆男子：6名（60.0%）☆女子：3名（33.3%）

2. 不賛成

\*全体：2名（5.3%）☆男子：0名（0.0%）☆女子：2名（10.0%）

\*美全：1名（5.3%）☆男子：0名（0.0%）☆女子：1名（9.1%）

\*テ全：1名（5.3%）☆男子：0名（0.0%）☆女子：1名（11.1%）

3. どちらでもよい。

\*全体：16名（42.1%）☆男子：8名（44.4%）☆女子：8名（40.0%）

\*美全：8名（42.1%）☆男子：4名（50.0%）☆女子：4名（36.4%）

\*テ全：8名（42.1%）☆男子：4名（40.0%）☆女子：4名（44.4%）

\*設問の目的：3・に於いて既に記したことであるが☆

フランス語の歌を全員で歌ったり、☆ランボー没100年をくやみランボーの韻文詩のいくつかを朗読したりして、ビデオに収め（美術Ⅱ類・映像の学生が撮影・器材は大学の器材使用）、教材として使用した。学生達の反応は今一歩であったが、今後工夫の仕方次第では十分に授業の活性化の役に立つと思いいこの設問を設けた。

\*集計結果に対する私見：全体としては賛成・不賛成（どちらでもよい、を含み）と半々になった。

★回答[1. 賛成]では、美術科の女子学生の賛同が最も高い。それに比してデザイン科の女子学生の賛同が最も低い。男子は概して行動的であるし、教室でゴソゴソと文字と音の学習をしているよりましであったと思う。美術科の女子学生はけっこう自己表現として受け取っていてくれたと思っていたし、詩の朗読の指導にも積極的であった。

★回答[2. 不賛成]少なくとも不賛成とした学生は5.3%にとどまった。しかし回答[3・どちらでもよい]を[あまり余計なことはやりたくない。単位を取ればよい]と理解すれば問題は残る。

★設問・A・B・E・の回答・3に[どちらでもよかった][どちらとも言えない][どちらでもよい]という曖昧な回答選択種を設けたが、全体でA・3は13.5%、B・3は21.1%、E・3は31.6%であり、かなり[YES]と[NO]がはっきりしているのに反して、この設問・Fに関しては回答・3は42.1%であり、学生の意識の曖昧さを浮き彫りにしている。これらの学生達の意識の中には潜在的に曖昧な[どちらでもいい]という[教師まかせの受動的学習意識]があると考えて差支えないであろう。

★この設問に対する回答・3の%の高さを重視しなければならない。潜在意識については様々な解釈理論があるが、それは個人の意識の持続からくる確実な自己表現であると思う。すなわち学生を主人公にしたビデオ作りが私自身中途半端であり、自己満足にすぎなかったのではないかという反省がある。ペタンクを自費で6セット買い込み、授業以外で行いビデオ化していこうとしても学生達は授業以外のところでは応じないのも事実である。（註・10）

\*参考：1991年度入学・フランス語受講生41名のアンケート集計報告

G]ビデオ授業について＝3



本学の特徴を活かし、自分達でビデオ教材を作っていくことについて。

\*寸劇 \*朗読 \*遊び・などを、ビデオにして教材として使ったこと。

1. 賛成 \*全体：13名 (31.7%)
2. 不賛成 \*全体：8名 (19.5%)
3. どちらでもよい。 \*全体：20名 (48.8%)

この学年に関しては賛成の%が低くなり、不賛成の%がその分だけ高くなっている。どちらでもよい、も若干高くなっている。私の初期の計画は変更せざるを得ないであろう。

# 8

●H] G] で (1. に○) をつけた学生に。(複数○をつけても可)

- \*全体：19名 ☆男子：10名 ☆女子：9名
- \*美全：10名 ☆男子：4名 ☆女子：6名
- \*テ全：9名 ☆男子：6名 ☆女子：3名

## 1. フランス語が身についたから。

- \*全体：2名 (10.5%) ☆男子：1名 (10.0%) ☆女子：1名 (11.1%)
- \*美全：1名 (10.0%) ☆男子：1名 (25.0%) ☆女子：0名 (0.0%)
- \*テ全：1名 (11.1%) ☆男子：0名 (0.0%) ☆女子：1名 (33.3%)

## 2. 面白かったから。

- \*全体：10名 (52.6%) ☆男子：7名 (70.0%) ☆女子：3名 (33.3%)
- \*美全：5名 (50.0%) ☆男子：2名 (50.0%) ☆女子：3名 (50.0%)
- \*テ全：5名 (55.6%) ☆男子：5名 (83.3%) ☆女子：0名 (0.0%)

## 3. 自分が参加できるから。

- \*全体：7名 (36.8%) ☆男子：4名 (40.0%) ☆女子：3名 (33.3%)
- \*美全：4名 (40.0%) ☆男子：2名 (50.0%) ☆女子：2名 (33.3%)
- \*テ全：3名 (33.3%) ☆男子：2名 (33.3%) ☆女子：1名 (33.3%)

## 4. 反復授業ができたから。

- \*全体：6名 (31.6%) ☆男子：3名 (30.0%) ☆女子：3名 (33.3%)
- \*美全：3名 (30.0%) ☆男子：1名 (25.0%) ☆女子：2名 (33.3%)
- \*テ全：3名 (33.3%) ☆男子：2名 (33.3%) ☆女子：1名 (33.3%)

\*設問の目的：3および7で記したことではあるが、フランス語の歌やフランス語の詩の朗読をビデオに撮り教材として使用した事に賛成してくれた学生達がどのような教育効果を認めたかを知るための設問である。

\*集計結果に対する私見：最も%の高いのが回答[2. 面白かったから]である。

★回答[1. フランス語が身についたから]はたった

10.5%である。私の目的はあくまでフランス語教授である。この点に於いては失敗と言うしかないだろう。歌を歌う前や詩を朗読する前に行う授業での文法・訳・音などの学習では、テキストを行っている時以上に真剣さがあつたと思っていたのだが、空回りした観がある。しかし、ランボー詩集を買い込んで読んだ(もちろん邦訳ではあるが)という学生も現れ、フランス語ではないがフランス文化の一端を自発的に学ぼうとする学生がいたことは頼もしいことではあつた。

★回答[2. 面白かったから] 半数強の学生達が楽しめたということだろう。この[楽しめた]という側面を更に広げていくためには、更にこのような機会を多くしていく必要がある。歌と詩の朗読だけではなく、様々なフランス語での行事を行っていくことによって、それを媒体にして[フランス語を身につける]ことがより可能になっていくのではないだろうか。

★回答[3. 自分が参加できたから] これも回答・2をかなり下回っている。回答・2の[面白かったから]の意味が[参加したから面白かったのではなく]他の何か、教室での学習からの解放とか、他の学生達が演じているのを単に観ているとか、そのような曖昧な要因で[面白かった]学生達がいることがわかる。

★回答[4. 反復授業ができたから] これは演じる前の練習と本番という関係にある。詩の朗読をした学生達がこの回答に○をつけている。

★歌と詩の朗読以外に、会話を交えた寸劇を企画したのだが、担当の学生達がすべて[練習をエスケープ]してしまい、実行にまでは至らなかったことを付け加えておく。

\*参考：1991年度入学・フランス語受講生41名のアンケート集計報告

H] G] で (1. に○) をつけた学生に。(複数○をつけても可)

\*全体：13名

1. フランス語が身についたから。 \*全体：5名 (38.5%)
  2. 面白かったから。 \*全体：9名 (69.2%)
  3. 自分が参加できるから。 \*全体：1名 (7.7%)
  4. 反復授業ができたから。 \*全体：2名 (15.4%)
- 回答[1]の%がかなり高くなっている。しかしこのような授業形態に賛同している学生が少なくなっていること

を知っておこう。また、参加することに興味を示さない学生が多いことも今後の授業計画の参考になろう。



9

# ●I] ヴィデオを使った授業を行う場合。

## 1. 既製品のヴィデオで。

- \*全体:22名(57.9%) ☆男子: 8名(44.4%) ☆女子:14名(70.0%)
- \*美全: 8名(42.1%) ☆男子: 2名(25.0%) ☆女子: 6名(54.5%)
- \*テ全:14名(73.7%) ☆男子: 6名(60.0%) ☆女子: 8名(88.9%)

## 2. もっと自分達でヴィデオ教材を作成したかった。

- \*全体:16名(42.1%) ☆男子:10名(55.6%) ☆女子: 6名(30.0%)
- \*美全:11名(57.9%) ☆男子: 6名(75.0%) ☆女子: 5名(45.5%)
- \*テ全: 5名(26.3%) ☆男子: 4名(40.0%) ☆女子: 1名(11.1%)

\*設問の目的: これは設問G・Hに続いて、既製品のヴィデオの満足度を知りたかったからであり、また手作りの教材を作り出していくことにどの程度の学生が興味を持っているかを知り、今後授業にこれを組み込んでいくべきか否か、またその頻度程度を決定していくための設問である。

\*集計結果に対する私見: ここでもガッカリさせられた。美術系の大学であるから、多分自分達でなにかを作り出していこう、という意識が高いだろうと思っていたのが上記の結果である。

★回答 [1. 既製品のヴィデオで] においては、デザイン科の学生達の%が美術科の学生達を大幅に上回っている。当然のことではあるが、回答 [2. もっと自分達でヴィデオ教材を作成したかった] は逆になる。外国語の教授で最も苦慮することは、知識として学習したことの現実化と言おうか、そこに体験的な時間や空間を作り出

していくことが現行の授業形態では不可能に近いからであると痛感している。ただ受動的に既製品ヴィデオの映像を眺めたり (勿論、フランスの風景や町並み、人々を写し出すには既製品のヴィデオを使わざるを得ないが) そこから流れ出る音楽や言葉を聞き、真似をしていくだけでは18才をこえた青年達にとっては実に退屈な時間になってしまうのもやむをえないだろう。私は自分達で何か参加し得る授業を求めているわけで、なにもヴィデオ制作だけが唯一の方法だと言っているわけではない。ただ美術系の大学であり、ヴィデオ編集も可能なかなり高度な映像関係のスタジオが本学にはある。普通の大学では出来ない本学のような大学であるからこそヴィデオ制作を考えるのである。(註・11)

\*参考: 1991年度入学・フランス語受講生41名のアンケート集計報告

## I] ヴィデオを使った授業を行う場合。

### 1. 既製品のヴィデオで。

\*全体31名 (75.6%)

### 2. もっと自分達でヴィデオ教材を作成したかった。

\*全体10名 (24.4%)

この学年では☆ヴィデオで入門フランス語 (白水社) も少しの回数ではあるが使用した。集計結果は更に私の期待を裏切っている。管理された教育環境のなかで過ごしてきた学生達にとっては、学習するという行為はあくまで受動的なものに止まってしまっているのか。(註・12)

10

## ●J] I] で (2. に○をつけた学生に)

\*全体: 16名 ☆男子: 10名 ☆女子 6名

\*美全: 11名 ☆男子: 6名 ☆女子 5名

\*テ全: 5名 ☆男子: 4名 ☆女子 1名

### 1. どのようなヴィデオ教材をつくったらよかったか。

3つまで。

[\*AB=美:男子 \*AG=美:女子 \*DB=デザイン:男子 \*DG=デザイン:女子]

☆フランス語劇 AB AB AG AG AG AG DG DG DG

☆フランス語の歌 AG DB DB DG DG DG

☆詩の朗読 AG DB DG

☆ベトナムでフランス語でスポーツを行う AB AB

☆フランス語のクイズ AB AB

☆授業風景 AB DB

☆フランスの国	AG AG
☆フランスの民謡	AG
☆フランスのマナー講座	AG
☆紙芝居	AG
☆物語の朗読	AG

＊設問の目的：自分達でビデオ教材を作成してみたい、という学生達が、ではどの様なイメージを持ってこれに応えていたかを知り、機会があれば授業計画に組み込んでいこうと思っている。

＊集計結果に対する私見：☆最も多いのは劇である。しかし、8で記したが、テキストの会話文を使って寸劇を計画して、担当者まで決定したにもかかわらず、全員にエスケープされた苦い経験がある。いざやろうとすると困難が伴うことは明らかだ。☆次に多いのは歌である。これは今後も授業に取り入れられるだろう。☆詩の朗読は実用的な文の暗記ではないのに結構興味を示してくれた。問題は詩そのものではなく、どの詩人を選ぶかであろう。ランボーの話は結構うけたと思っているし、難しい「見者の手紙」の私なりの解釈での解説には、真剣に耳を傾けてくれた。このようなフランス語の教授にはいる以前の準備に時間がかかってしまう。しかし、詩の朗読はかなり成功したと思っている。

＊参考：1991年度入学・フランス語受講生41名のアンケート集計報告

J]I]で(2.に○をつけた学生に)

＊全体：10名

☆シャンソン特集	AG AG
☆CMに出てくるフランス語特集	AG AG
☆学生生活のシーン	AG DG
☆劇	AB DB
☆フランス語での自己紹介特集	AG DB
☆授業風景	DB
☆絵をみて会話するシーン	DB
☆挨拶・日常会話などのシーン	AG

一度、授業時間にグランドでペタンク大会を行った。その後、ペタンク委員・歌の委員・詩の朗読の委員・寸劇の委員をきめたのだが、実行にまでは至らなかった。とにかく[あまり余分なことはしたくない]といった雰囲気絶えずあり、計画だけに終わってしまったことを記しておく。

## おわりに

学生達のアンケートをもとに美術系大学に於いて魅力あるフランス語教授法を模索してみたのであるが、結局はテキスト中心の授業が学生達には最も抵抗がないことがわかる。ビデオによる授業もある程度は遊びの要素を覚悟してかからなければならない。彼等のフランスに対する憧れは十分に感じられるし、フランスを写し、地図のうえでパリを散歩したり、メトロに乗ったりする授業もさらに増やしていくべきであろう。また、簡単な会話の訓練を各時間に少しずつ行うことも有意義であろうし、学生達のフランス語に対する興味もたかまると思っている。最後に次の一文を記して終わろう。

☆平成3年2月8日付けの大学審議会の「大学教育の改善について(答申)」中に次のような一文がある。

[外国語の演習、体育の実技等で例外を認めている趣旨は、これらの授業科目が比較的短期間に集中して履修することから、高い学習効果が期待できることから、集中講義、実技の合宿など短い授業期間で授業を実施し得るようにすることにあるが、この例外規定についても、大学の現場では、必ずしもその趣旨が十分理解されていないのが実情であり、各大学での活用が望まれる。](註・13)

この例外を認めている趣旨とは[授業期間]の項の、[o各授業科目の授業は、10週又は15週を単位として行う。ただし、外国語の演習、体育実技等の授業については教育上特別の必要がある場合は例外を認める。](註・14)である。

これを本学のフランス語の授業に適応してくれば、様々なフランス語での行事をととした授業が可能になり、単に[面白かったから]というだけではなく、[フランス語を身につける]授業と一体化するのではないだろうかと期待している。

註・1：「大学教育改善について(答申)」大学審議会・平成3年2月8日付・p.6

II 主要事項について。1 大学設置基準の大綱化等について。(1)教育内容・方法に関する事項。  
a 開設授業科目及び卒業要件。6。1～3に於いては従来のカリキュラムの構成枠に縛られず各大学が独自にカリキュラムを編成する趣旨を述べ、

4に於いて、一般教育科目と専門教育科目等の区分の必要性を述べ、5に於いては[従来のように、大学で開設する授業科目を専門教育科目、一般教育科目、外国語科目、保険体育科目等に区分し、従来と同様の最低修得単位数を規定することも可能である。]としている。このような項目に続く項目である。

註・2：「第4回フランス語教育に関する調査集計報告書」日本フランス語フランス文学会・語学教育委員会・1991年5月20日発刊・p.37。

これは英語は必修外国語として履修しそれ以外に第二外国語としてフランス語その他を選択する場合の統計であるが、本校ではこの第一外国語と第二外国語という区別はなく、いわばここで言う第二外国語の選択と同じ形態で英語かフランス語かを選択させているのであり、この統計報告との比較は的を得ていると思う。

註・3：「大学の効果」C.カー・茅 誠司訳 東京大学出版会 1969年5月10日発刊p.18。

19世紀初頭のドイツの大学の言葉「学ぶ自由」(Lernfreiheit)と「教える自由」(Lehrfreiheit)について述べた後、次のように続けている。[しかし、元来、選択制度は、学生のために設けられたものであるが、しだいに、学生に対するよりも、教師にとって都合のよい制度と化していった。]この[教師にとって]を[大学にとって]と置き換えて現状を認識することも可能ではないだろうか。

\*クラーク・カー：カリフォルニア大学総長の任を経験。カーネギー高等教育審議会会長の任を経験。経済学者・労働問題専攻。

註・4：「人はいかに学ぶか」稲垣佳世子・波多野誼余夫 中公新書1989年1月25日刊p.119

[(1)まずやり方のお手本を示す、(2)学び手がそれをまねて活動する際に、不都合な点や困難があれば、そこで簡単なヒントや助言を与える、(3)彼が成長するにつれて、こうした助言やヒントを少なくしていく、]人が人を教えていくことと、機械を扱うことの違いについて著者はこのような提言をしている。

註・5：IBID pp.72.73

[アメリカの言語学者、チョムスキーの影響を受けた人は、子供が豊かではあるが抽象的な文法の体系をもって生まれてきており、それを外から与えられる比較的乏しい情報に照らして具体化する、]

註・6：「外国語教育に関するアンケート調査報告」1991年8月25日：人文研究紀要第13号・中央大学人文科学研究所・外国語教育研究チーム：・渡辺新一・田中 裕・竹内久雄・橋本 能・野口 薫・新井 裕・大高知児：p.44

註・7：「第4回フランス語教育に関する調査集計報告書」日本フランス語フランス文学会・語学教育委員会・1991年5月20日発刊・p.24

註・8：「語学教育シンポジウム：これでよいのか フランス語教育」1991年6月8日・東京大学駒場校舎13号館1階313号室で行われた。日本フランス語フランス文学会。司会： 廣島敏史(青山学院大学)。パネラー：長谷川隆久(早稲田大学)、油谷耕吉(玉川大学)、麻生宗由(法政大学)、古本耕三(中央大学)：記録 p.10

これは註・2及び註・7の調査報告のp.44を参考としての発言である。

註・9：「夢と実存」L・ビンスワンガー：序論・M・フーコー：荻野恒一・中村 昇・小須田 健・共訳・みすず書房1992年9月30日刊・p.111

ミッシェル・フーコーは夢と現実について次のように書いている。表現・芸術作品の倫理を説き、歴史の諸契機の客観的な生成が世界を構成することを説き、夢こそこれらの根源的契機と、われわれの実存を導くさまざまな意味作用とをしめしてくれるのである。と書いたのち、[夢こそ、実存のうちでもっとも歴史に還元しにくいものを浮かびあがらせることによって、客観的表現のうちではまだおのれの普遍性の契機に達していなかったある自由のための実存に選びとりうる方向をもっともよく示してくれるものだ、ということなのである。それゆえ夢の優位は、具体的人間を人間学的に認識するうえで絶対のものなのであるが、他方、この優位を乗り越えてゆくことこそが、現実の人間にとっての将来の課題である―]

註・10：「差異について」 ジル・ドウルーズ・平井啓之・訳・青土社・1992年9月25日刊・pp.82.83  
学生たちのこの様な意識を判断するために、ジル・ドウルーズの一文を参考にしよう。[ー潜在的なものこそ絶対に確実な存在様態を定義する。持続とは、潜在的なものである。持続のしかじかの程度は、その程度が分化するかぎりに於いて、現実的である。たとえば持続はそれ自体としては心理的なものではないが、心理的なものは持続の或る程度をあらわし、その程度は他の程度の間で、他の程度に伍して実現される。]

註・11：「学校の再生をめざして」 佐伯 胖・汐見稔幸・佐藤 学・編・東京大学出版会・1992年9月10日刊・pp.86.87  
日本で行われてきた学習の無媒介性を指摘した後、佐藤 学氏は次のように述べている。[もう一つの問題は、知識を、理解し獲得する対象としてとらえるだけで、自己や世界を構成し表現する形式としては扱ってこなかった。だから、ある事柄が分かったとしても、その事柄の世界がわかったのか、わかることによって何が自分の中で起こったのかが吟味されないし、曖昧なままなんです。テストの場合が典型的なのだけれども、要するに知識は再生できればいいという形になっていますね。ところが、僕が調べた新教育の系譜の実践だと、学習の最後は、本作りとかりポート作りとか、必ず作品にもっていくわけです。その表現形式にもってゆくことで、その子の固有のストーリーの中で知識が位置づいてくる。つまり、子供がわかるというのは、その知識に習熟することではなくて、その知識が文脈を獲得して、その子どもの中に、あるストーリーが生まれることだと思うのです。]

註・12：「知的好奇心」 稲垣佳世子・波多野誼余夫 中公新書昭和61年8月25日刊 p.47  
授業のリーダー・コーディネーターとしての私自身次のことに注意しなければならない。たえず「ひょっとしたら彼等の方が正しいのではないか」というジレンマを恐れていてはならないし、学生達をたえず正しく観察し、彼等の意識を尊重

すると同時に、フランス語を教授するという職務をより高い次元で遂行していかなければならないと痛感する。次の一文はその参考になろう。

[ある問題について必ずしも根拠なしに反対しているひとびとの意見をかえさせるにはどうすればよいのか。いろいろな機会を設けて、彼等がまちがっていること、もっとよい意見があることを宣伝すればよい——だれしもこう思うにちがいない。しかし、これまでのマスコミュニケーションの研究によれば、こうした方法でひとびとの意見をかえさせることはきわめてむずかしい、という。]

註・13：「大学教育改善について(答申)」 大学審議会・平成3年2月8日付・p.10

II主要事項について 1 大学設置基準の大綱化等について c 授業 4

註・14：「大学教育改善について(答申)」 大学審議会・平成3年2月8日付・p.9

II主要事項について 1 大学設置基準の大綱化等について c 授業 1 注

大学設置基準の規定 [授業期間]

## SUMMARY

Takashi SUZUKI

In April in 1990, our College started. And the French class was set two times a week for their first two years as a required subject. The students can choose either French or English. Eight credits in total were settled for the students.

I came to take charge of all the French classes. For the students who major in arts, before the semester began, I made the detailed syllabus for the lessons, for examples, the attainment mark, the lesson format, but now I am afraid that all those plans or syllabus were only for the teacher's self-satisfaction. And then I made

up my mind to hear the students by questionnaires. In the last class of these two years I carried out the plan with a view to making a new syllabus which is more adapted for my students.

In "the Reports about the Improvements of The Education at the Universities" by the University Commission on the eighth of February in 1991, there is a sentence about the ideas of what liberal-arts at universities ought to be.

Of course, the foreign languages education is included among the Ideas, so I believe that I have the duty to improve the teaching projections of French.

Now thanks to their replies, I hope I will be able to find the new ideas of teaching French in our College.

November 30, 1992